



わが家のペットのくーちゃん(おかめインコ)ですが、わが家に来てからすでに2か月を超えました。手乗りのインコで人間大好きな種のようなです。オンリーワンの性格のようで、私以外には心を許しません。家族はかわいくない〜とブーイング頻りです。(一日中放鳥。一定範囲内で遊んでいます)。

そうなる私にとってはとっても気分がよいもので、かわいさも百倍。ラブバードと言われるゆえんもここにありそうです。パソコンの作業中も私のそばを離れようとしませんし、最近では私が帰ってきた車の音にも反応するみたいで、顔を見るまで呼び続けています。

ペットブームは犬猫を主な対象動物として、今でも根強いものがあるのですが、虐待する例も少なくなく動物愛護習慣(9月20日~26日)が設けられています。「ひろく国民の間に命あるものである動物の愛護と適正な飼養についての関心と理解を深めるようにするため、動物愛護週間を設ける。」と(動物愛護管理法 第4条)で定められています。しかし人間は都合によって動物を愛護しますが人間の食欲を満たすために様々な命を奪い続けているという現実気づくことはないのです。命が平等に尊いと説かれている半面で、殺され続けていく命に舌なめずりしている人間がいることに空恐ろしさを感じてしまうのです。ペットにしていること自体もどうなのか、疑問ですね。



午後 若院法話風景

秋季永代経
勤まる

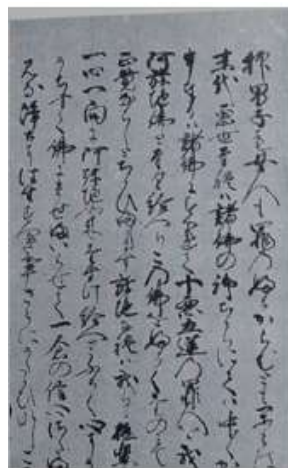
歎異抄は宗派を超えた優れた仏教書の一つで、信仰のあるなしに関わらず広く読まれています。永遠のベストセラーと言われる所以です。真数門徒は親鸞聖人の思想信仰を学ぶ身近な教本として、じっくり取り組みたい書物です。

歎異抄』学習のすすめ

樹林

歎異抄は誤解をまねきやすい仏教書として、敬遠される傾向にあるようですが、親鸞聖人のもとで身近に仕え、深く人間的交流をもった唯円が、親鸞聖人没後、教えが間違つて受け取られる実情を嘆いて書き記したものです。確かに文中には逆説的な表現もありますが、これは親鸞聖人の深い思想を反映したもので、熟読吟味することで他力信仰の境地を捉えることができます。真実の信仰に目覚めるためにも、歎異抄の学習は得がたい成果をもたらすものと思います。

自分の経験からも、歎異抄を手にするこの意義を確信します。寺の学習会は勿論ですが、個人として解説書に目を通しながら、親鸞聖人が到達された救済の境地に触れることができれば、門徒として新しい世界が開かれると思う次第です。



去る九月二十三日(土)秋分の日、爽やかな秋晴れの一日となりました。多くの「ご参詣をいただきありがとうございました。」
 午前は住職が本山奉仕団として参加したご報告をパワーポイントを使って映像を交えて行いました。午後は若院が日常を話題にした「近年光受寺では、男性の方の聴講が増えつつあるように、住職、大変喜んでおります。」
 ただ、「この秋は夏の暑さのギャップから体調を崩される方が多かったようで、亡くなられた方も多く、さみしい九月となりました。」

岐阜教区第十一組 奉仕団として参加

今回も多くのご縁をいただきました。



ご修復後の御影堂(手前)と阿弥陀堂(奥)

去る九月六日(水)〜八日(金)の二泊三日で、岐阜教区第十一組の奉仕団として上山して参りました。この門徒会の企画は、門徒会長、組長はじめ組の住職、門徒が二年に一度、上山して研修を積もつという同朋会運動の一環として行なってきたものです。

今回は残念なことに参加寺院は、十四ヶ寺中わずか五ヶ寺。住職二名の若院一名、門徒十二名という、とてもさみしいものでした。まるで真宗の行く末を暗示しているかのようで、門徒会長さんのお骨折りにも応えられていないな〜とつくづく思いました。ちなみに光受寺からは二名が参加いたしました。



モダンな
和敬堂玄関

今回の奉仕団は二団体でした。短期大学の女子の団体と、教師資格取得のための修練中のお坊さん達でした。

一泊二日の本山の研修において、寝食を共にしながら語り合ひ、荘厳な雰囲気の中でお経を聴き、ご法話を聴かせていただいた充実感、普段の生活では味わえない独特のものでした。

二日目は湯ノ花温泉、近江八幡と観光、大津プリンスホテルでバイキング料理をいただき帰路につきました。

日本人

なぜ、こんなにも戦つていっかが好きなのでしょうか。

試合で戦い、受験で戦い、選挙で戦い、病氣と闘い、そして人生と闘つて、戦つ闘つていっかばかり。

私がこの世に生まれ出してきたこの世間は、戦つ闘つたためなのでしょう。 **もてい楽な思想と生きかたはあります。**

光受寺真宗本願奉仕団のお誘い。

光受寺門徒の皆様には、一生一度は本山へ参詣していただきたいとの願いから来年度も奉仕団を結成したいと思っております。

前回は2014年に上山してございますので、4年ぶりですが、10月初旬を予定しております。

詳細ができれば今年の報恩講までのご参詣をお願いします。ご予定に加えていただければありがたいです。

一泊二日、二日目は午後、観光します。場所未定。予定人員20名前後。予算2万円程度。

そろそろ、お取り越の時期になります。

報恩講は、親鸞聖人のご命日十一月二十八日を期して勤められます。東本願寺では、十一月二十一日より二十八日まで勤められます。また、別院寺院ご門徒のご家庭でも、ご命日を中心前後してお勤めをします。このように日をずらしてお勤めしますの、門徒の家庭の報恩講をお取越しと言います。

宗祖が果たされたお仕事の大切さを讃え、親鸞聖人の恩徳に感謝し報いるためのおこつめが報恩講です。お取越しは、真宗門徒のご家庭において、一番大切なお仏事です。できれば、**家族そろって勤めた**いませう。

九月最後の喫茶日(十九日)

今日はとても気持ちのよい一日でした。

仏壇の話に、病氣の話などなど。しかし、やはりメインは法話と才鑑賞となりました。



今回は私事ですが、プロジェクトを買ってまいりました。もちろんお小遣いで買える程度の安物ですが、B5インチまでの画面で楽しめる優れものです。十月の学習会では試写してみたいと思っております。

この日は初めての方の訪問もあつてうれしい一日となりました。

今月の掲示板